



発行 真宗大谷派 高山教務所
発行者 出雲路 善公
〒506-0857 高山市鉄砲町6番地
☎(0577)32-0776
*毎月20日発行 50,000部
三市一郡無料配布
印刷 山都印刷株式会社

念仏申しているか
照らされて

念仏申しているか

相馬 豊



〈略歴〉
一九五七年石川県生まれ。金沢教区道因寺住職。大谷大学大学院修士課程修了。同朋会館常勤補導、大聖寺教区駐在教導、金沢真宗学院指導主任などを務める。

老人介護福祉施設に入所されている方が自宅に三泊四日の予定で戻ってこられました。

法事、お盆、報恩講の折には、日帰りでお参りされていきました。

久しぶりに、お内仏の前のいつもの「座」に「主」が座っておられると、勤行の雰囲気も和らぎがあり、正信偈のお勤めの声、念仏の音が私の後方から届いて聞こえてきました。

自宅に戻っての宿泊のため、家族の方々は施設の担当者と事前の打ち合わせ、相談を重ねました。室内での転倒、入浴、食事、排泄、室温調節等の諸注意に十分気をつけ、家族間の分担を細部に確認し、帰宅の日を迎えま

した。しかし、実際に自宅介護になるとどうしても家族としての感情があり、思うようにいかず、家族間でいらだちや些細な事での口喧嘩もあったそうです。また、本人も施設と異なる環境変化で落ちつきなく、不安な様子で椅子から立ったり座ったりを繰り返して、自分の居場所を探しているようでした。ふっと姿が見えないので探すと、仏間に入り、一番安心できる自分の居場所を見つけたように、お内仏の前座っていたと、家族の方が話してくださいました。

そして、お内仏の前に座っているお母さんに「うら（私）おらんでも参っているか」と声をか

進んでいます。そこに向かつての歩みでは、不安や悩みも伴い、人それぞれ苦悩の日々を送っています。しかし、その日々の中にあっても「老・病・死」することなど頭には一切入っていません。老いてゆく身は切なく、病の身は辛く悲しく、死んでいく身はまことに情けないと言えます。どうしても私自身が最後に遇わなければならぬことが「老・病・死」の我が身であり、これこそが「私の正体」ではないでしょうか。

私たちには多くの先人や親たちから受け継ぎ伝えられて来たものが、たくさん手渡されています。身近な人から大切に受け継ぎ、伝えられていることを受け取つていながら、いつの間にか忘れ、目先だけの関心事を自分の人生だと思ひ違え、良いだけの悪いだけの得だのと言っています。「自分の人生を生きる」ということが、未だにはつきりしないまま今日に至っているのではないのでしょうか。

「念仏申しているか」
その声に導かれて、確かな自分の居場所を見いだしていけるかどうか、一人ひとりの今後の生き方にかかっています。その願いに導かれて、私たちもまた、お念仏の足跡を残して生涯を終えていくのでしょうか。

「念仏申しているか」
その声に導かれて、確かな自分の居場所を見いだしていけるかどうか、一人ひとりの今後の生き方にかかっています。その願いに導かれて、私たちもまた、お念仏の足跡を残して生涯を終えていくのでしょうか。

新春のご挨拶

あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく願い申しあげます。

私たちは日頃、いろいろな出来事に悩みやとまどいを持ちながら生きています。そんな中で、他の人に対して怒りや憎しみや妬みなどの思いを感じることもしばしばです。それは自分の意志や努力によって消し去ることも不可能です。そんな問題を抱えながら生きることを余儀なくされるのが凡夫に他なりません。ところが私たちは、自分が抱える問題を自らの力で解決できると安易に考えたり、逆にそれを直視せずに当然のこととして済ませていこうとします。実はここに私たちの本当の「愚かさ」があります。親鸞聖人のお言葉に

「愚禿が心は、内は愚にして外は賢なり」

『愚禿鈔』

とあります。「愚禿」とは、自らが愚かなる凡夫として生きていくことを確める言葉です。自らの内面にはさまざまな問題を抱えていながら、それを無視したり、外見でごまかしたりして、自分ではない自分を演じて生きていこうとする生き方は、この「愚かさ」によって生み出されてきます。これを聖人は「内は愚にして外は賢なり」という言葉で確かめています。

飛騨御坊御遠忌750
2019(平成31)年
5月10日(金)~12日(日)

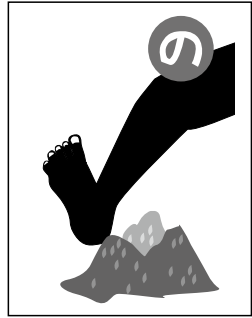
別院真宗公開講座のご案内
講師 高柳正裕氏 (学仏道場回光舎)
2016年2月18日(木)
テーマ 「怯えと不安が溶ける道」
会場 高山別院 御坊会館
時間 午後2時から4時
聴講料 各日600円

年頭版画 念仏申さるべし
Illustration by Jun.K
隠れた文字を探してください

☎テレホン法話(0577)34(23)13 ☎1月21日~31日:三島大蓮氏「真蓮寺」 ☎2月1日~10日:宮川徳義氏「聖圓寺」 ☎2月11日~20日:白川悟氏「願生寺」 宗教トラブル相談窓口(0577)13210763

女と男の

ナムアミダブツ⑩
藤場 芳子



の 乗りこえよう
制度、因襲、
世間体

別々の年賀状

お正月のことです。私たち夫婦の学生時代の先輩から電話がかかってきました。新年の挨拶や近況を話した後にこう言われました。「ところで君達は仲良くやっているのかね。夫婦別々の名前で年賀状が毎年届くので心配している」と。夫婦でも伝えたいメッセージは同じではないので、結婚当初から35年間別々に出してきました。でもまさか、そんな風を受け取られていたとは思いませんでした。年に一度のご挨拶だからこそ、私は自分の言葉で表現したいのです。

夫婦別姓

年賀状は別々の私ですが、結婚する時に夫の姓に変わることには何の疑問も感じませんでした。けれども性別に関心を持ち始めた頃から夫婦の姓について考えるようになりました。結婚前にこの問題に出あったら私はどう

いう選択をしただろうか。

昨年末に夫婦別姓を求める原告に対して、最高裁判所は夫婦同姓が合憲だとして原告の要求を棄却しました。理由は民法では夫婦どちらかの姓を選ぶのは両者の話し合いに委ねられていて、男性の姓が強制されているわけではないということでした。しかも最近では結婚前の姓を職場で通名として使う女性が増えているので、女性の利益が緩和されているというのです。正論かもしれませんが、強者の論理のよりに聞こえるのは私だけでしょうか。一方、弁護士側は96%の女性が改姓していることを「間接差別」だと述べています。15人の裁判官のうち女性3人が全員違憲だと判断したことを裏付けていると思います。

立場が変わると

一年前のある研修会で「僕は自分の姓にこだわっていないので、結婚するしたら彼女の姓になってもいいと思います」と一人の男性が発言しました。すると即座に別の男性が応答しました。「それは自分がその立場になっていないから言えることですよ。僕は結婚して養子になってクレジットカードや運転免許の変更の煩わしさを味わった。でもそれ以上に自分が今まで使ってきた姓を名がなくなったことへの喪失感が大きかった。僕と同様に多くの女性には選択肢がないということとがわかった」と。彼は養子になって初めて女性の置かれている立場とその気持ちに気づかされたのです。

「異見」を受け入れられるか

今回のカルタの句は「乗りこえよう 制度、因襲、世間体」です。制度や因襲はわかりやすいですが、

同じでなくていい

私が仲良くしているご夫婦に「あなた達はどちらの姓を選んでいるの」と尋ねてみました。すると予期せぬ答えが返ってきました。「実は私たちは結婚していません。だから借家を捜す時に大変だった。戸籍に入っていないと偏見の目で見られるから。戸籍ってそもそも何だろうね」と彼女は笑顔で話しました。

改姓して新しい人生をスタートしたい人もいるし、生まれ育った名前のままがいい人もいます。考え方は人それぞれ。だから「同じ」であることを要求されると生きづらくなる。それとは対極の「同じでなくていい」という世界、それを真宗では「浄土」と言います。「右へならえ」と言われて間違った方向へ行ってしまった70年前。異なる生き方を認め合うことが平和への一歩かもしれないと言ったら、飛躍しすぎでしょうか。

次回は酒井義一さんの「私を照らすひかりの言葉⑫」です。

飛驒の真宗

伝承散歩⑳ 真蓮寺の浄観

昔むかし、真蓮寺という寺に、浄観という学徳の高い名僧がおられたそう。この僧、若い頃はとてもやんちゃであった。蜂の巣をつついて蜂に刺され片目を失明し、また、子どもも不自由になった。以来、母親の泣いての論しもあつて、性根を入れて学問に励むようになったという。学問に集中して、床について寝るということがなかった。後に、京都本山で講義をするまでになったそう。



【浄観の肖像画】

この僧もその問答を聞きたくないので、黒染の衣に輪袈裟をかけ、杖にすがって本堂へ上られると、すぐに大知識はその姿を見つつけ、「それなる御僧」と呼びかけて、「汝、不具足にて仏僧とは如何に」と一喝せられた。すると、僧は笑いながら静かに「満月も西に入る(いわんや半月をや)」と答えられたので、大知識は感嘆して、早速その席を退き、その僧に譲られたという。

聖教学習会

講題 「正信偈に学ぶ」
講師 藤元 雅文氏 (大谷大学講師)
期日 2月22日(月)
時間 午後1時30分～午後4時
会場 高山別院 2階研修室
会費 無料 ※聴講自由

教化研究所課題別講義

テーマ 「グリーンケアとは何か
—なくした人と
つながる生き方—」
講師 尾角 光美氏 (社団法人リヴォン代表)
期日 2016年1月22日(金)
時間 午後1時30分～午後4時
会場 高山別院 2階研修室
会費 無料 ※聴講自由

飛驒御坊 御遠忌通信①

高山市荘川町の県天然記念物荘川桜の苗木が、この御遠忌を機に京都東本願寺境内地に移植されることが決まりました。その移植に先立ち、昨年12月4日(金)に「根廻し」という作業が行われました。「根廻し」とは、移植後の活着・生育をよくするために、あらかじめ根元近くの根を切断して、細部の発生を促す処置です。当日は雪の降る中、京都の加藤造園の職人4名が作業をされました。2018年に移植が行われる予定です。高山別院照蓮寺の歴史を物語る荘川桜が満開に咲き誇る日が待ち遠しく思われます。



※高山教区・高山別院の御遠忌について、詳細は『ひだご坊御遠忌特別号』をご覧ください。今後、御遠忌に向けての教区と別院の動きを本紙にてお伝えしていきます。